

仙台市文化財調査報告書第379集

み か み ね  
三 神 峯

— 三神峯遺跡第4・5次発掘調査 —  
— 三神峯古墳群確認調査報告書 —

2010年12月

仙台市教育委員会

## 序 文

仙台市の文化財保護行政に対しまして、日ごろからご理解、ご協力を賜り、感謝申し上げます。

本書に収めた三神峯遺跡および三神峯古墳群が所在する三神峯公園は、昭和42年に開園しました。春には、ソメイヨシノやヤエザクラ、シダレザクラなどの桜が公園内一面に咲き誇り、市内でも有数の花見の名所として知られ、花を愛でる多くの人々で園内は賑わいます。しかし近年、桜の木の枯損などにより、園内の景観が損なわれつつあるため、平成17年度に再整備計画を策定しました。

三神峯遺跡第5次調査および三神峯古墳群確認調査は、再整備に先立って、平成19年に発掘調査を実施しました。本書であわせて報告しました三神峯遺跡第4次調査は、平成6年に公園内公衆トイレ設置工事に伴う発掘調査を実施したものであります。

三神峯遺跡は縄文時代の遺跡として戦前から知られており、これまでの調査によって縄文時代前期の住居跡や土器が発見されております。また、三神峯遺跡の西部に隣接する三神峯古墳群は、古墳時代中期後半頃の築造が考えられる円墳が2基、現在でも墳丘が公園内に残存しております。いずれも各時代の集落または墓域の様相を考える上で重要な遺跡であります。

今後、教育委員会ではこれらの資料を有効に利活用し、当地域および仙台市民の皆様をはじめとした多くの方々に、この調査成果を享受して頂けますよう努力してまいります。

最後になりましたが、発掘調査および本報告書の刊行に際しましてご指導、ご協力下さいました皆様に心より感謝申し上げる次第です。

平成22年12月

仙台市教育委員会  
教育長 青沼 一民

## 例　　言

- 1 本書は、仙台市教育委員会により、平成5・6年度に実施した仙台市太白区建設部および仙台市建設局公園課による三神峯公園内公衆トイレおよび障害者用トイレ建設に伴う三神峯遺跡第4次発掘調査、および平成19・20年度に実施した仙台市太白区公園課による三神峯公園再整備事業に伴う三神峯遺跡第5次発掘調査および三神峯古墳群確認調査の報告書である。
- 2 本書の執筆・編集は、仙台市教育委員会文化財課担当職員の協議の上、主濱光朗・結城慎一・木村浩二の協力のもと、佐伯修一が行った。
- 3 遺物実測やトレース等の整理作業は、主に向田文化財整理収蔵室の作業員が行った。
- 4 本書にかかわる遺物・写真・実測図面等の資料は、仙台市教育委員会が保管している。

## 凡　　例

- 1 本書で使用した土色は、「新版標準土色帖」(小山・竹原:1976)に準拠した。
- 2 本書中で使用した地形図は国土地理院発行の1:25000『仙台市西南部・東南部』の一部を使用している。
- 3 遺構実測図中の方位は磁北で示している。仙台市における磁北は真北に対して西偏約7°20'である。
- 4 遺構実測図中の標高値は、海拔高度を示している。
- 5 遺物図版の縮尺は、原則1/3とし、石器類は2/3とした。
- 6 遺構は種別ごとに次の略号を用いた。  
SD:溝跡 SK:土坑 P:ピット SX:性格不明遺構
- 7 遺物の登録は、以下の分類と略号を用いた。  
A:縄文土器 G:平瓦 K:石器 P:土製品 S:埴輪

## 目　　次

序　文	
例　言	
目　次	
第Ⅰ章　調査概要	1
第1節　調査に至る経緯	1
第2節　調査要項	1
第Ⅱ章　遺跡の立地と環境	1
第1節　地理的環境	1
第2節　歴史的環境	2
第Ⅲ章　三神峯遺跡第4次調査	4
第Ⅳ章　三神峯遺跡第5次調査および三神峯古墳群確認調査	5
第Ⅴ章　まとめ	8
写真図版	16
報告書抄録	21

## 第Ⅰ章 調査概要

### 第1節 調査に至る経緯

#### 1. 三神峯遺跡第4次調査

平成5年11月9日付け（太建建第188号）および平成6年11月24日付け（建緑公第136号）で、三神峯公園内公衆トイレおよび障害者用トイレ建設に伴う当遺跡の発掘通知が、仙台市長・藤井黎より仙台市教育委員会に提出された。

これを受けて、市教育委員会は、建設予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地であることから、その性格と範囲の確認を目的として、平成6年1月10日～11日、12月15日に83.75m<sup>2</sup>の確認調査を実施した。その結果、一部で遺構・遺物を確認したため、太白区建設部建設課および建設局公園課と協議の上、確認された遺構が破壊されないよう建設位置を変更した。

#### 2. 三神峯遺跡第5次調査および三神峯古墳群確認調査

平成18年5月9日付け（太建公第41号）で、三神峯公園再整備事業に伴う当遺跡の発掘通知が、仙台市長・梅原克彦より仙台市教育委員会に提出された。主幹課である仙台市太白区建設部公園課とは、通知以前より協議を重ね、遺跡が破壊される部分を最小限に留めるため、確認調査に基づき設計を見直し、並びに盛土の厚さや掘削深度等の工法を変更するという方針のもと、公園再整備計画を進めることとした。

今回の調査は、平成19・20年度整備工事に伴うもので、111m<sup>2</sup>の確認調査と245m<sup>2</sup>の本調査を実施した。遺跡西半部を主な対象とし、整備設計図面から調査区の設定を行った。なお、今回の三神峯遺跡第5次調査で実施した確認調査の結果をもとに、平成20年度に三神峯遺跡第6次調査を実施し報告書を刊行している。

### 第2節 調査要項

遺跡名	三神峯遺跡（宮城県遺跡地名表登録番号01004）
所在地	三神峯古墳群（宮城県遺跡地名表登録番号01006）
所在地	仙台市太白区三神峯一丁目1地内
調査面積	第4次調査 83.75m <sup>2</sup> （トレンチ3箇所）
	第5次調査および三神峯古墳群確認調査 356m <sup>2</sup> （トレンチ15箇所）
調査期間	第4次調査：平成6年1月10日～11日、12月15日
	第5次調査および三神峯古墳群確認調査：平成19年3月12日～20日、8月20日～9月7日
調査主体	仙台市教育委員会
調査担当	仙台市教育委員会文化財課調査係 第4次調査：篠原信彦 第5次調査および三神峯古墳群確認調査 ：長島榮一 今野秀治 鈴木 隆 工藤慶次郎 加藤隆則 森田賢司

## 第Ⅱ章 遺跡の立地と環境

### 第1節 地理的環境

三神峯遺跡は、仙台市太白区三神峯一丁目に所在する。市営地下鉄の長町南駅から約1.7km西方にある三神峯公園内に位置し、縄文時代を中心とする集落遺跡である。

仙台市は、西側は山形県に接し、東側は太平洋岸まで広がる横長の区域である。山地から海岸線までを含むことから、地形は変化に富んでおり、おおむね西から東にかけて山地、丘陵、段丘、（沖積）平野に分けられる。本遺跡はこのうち名取川によって形成された河岸段丘の東端に位置し、河岸段丘の東側は沖積平野と接している。この河岸段丘は、三神峯遺跡北東部C地点の報告では青葉山段丘としている（仙台市教育委員会1980）。

三神峯遺跡の範囲は、現在三神峯公園として開放されている地域の全域を含み、総面積は約75,000m<sup>2</sup>（仙台市教育委員会1980）である。台地上はほぼ平坦であり、標高は64～69mを測る。南東に広がる沖積平野との比高差は約40mである。今回の調査地点は、遺跡の立地する台地の中央部から西半部に位置する。

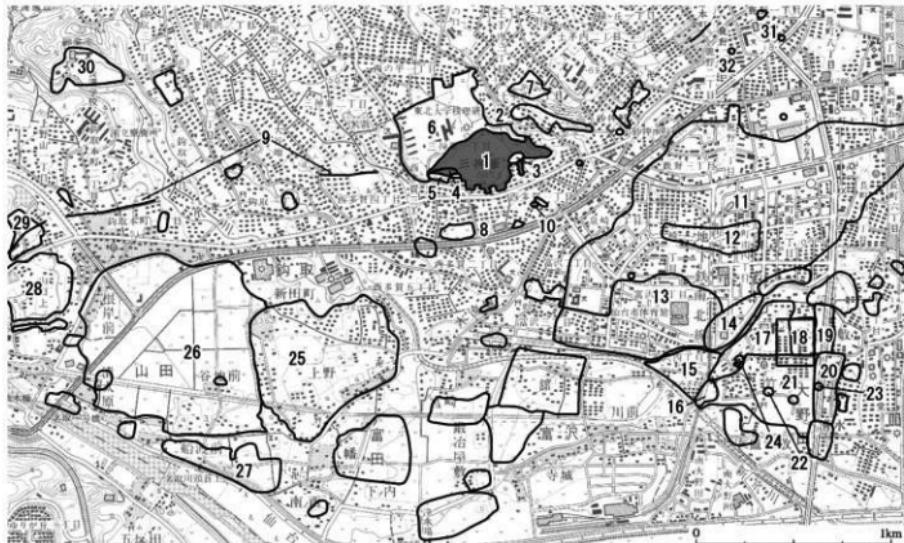
## 第2節 歴史的環境

三神峯遺跡および三神峯古墳群の周辺は、各時代の遺跡が数多く分布する地域である。以下に、今回の調査において主体となった縄文時代・古墳時代に絞って、周辺の遺跡を概観してみたい。

**縄文時代** 三神峯遺跡周辺の縄文時代の遺跡は、芦ノ口遺跡、下ノ内浦遺跡、下ノ内遺跡、伊古田遺跡、六反田遺跡、大野田遺跡、王ノ壇遺跡、上野遺跡、山田上ノ台遺跡などが挙げられる。芦ノ口遺跡は、三神峯遺跡の北側に隣接しており、縄文時代早期後半の土器などが出土している。上野遺跡は、仙台市域を代表する縄文時代中期の遺跡である。これまでの調査で竪穴住居跡や、貯蔵穴として使用されたプラスコ状土坑が多数検出され、大規模集落跡の様相が明らかになりつつある。山田上ノ台遺跡は、縄文時代中期末頃の大集落として著名である。竪穴住居跡、墓や貯蔵穴などが検出され、現在は調査成果から当時の集落の一部を復元し「仙台市縄文の森広場」として整備活用が図られている。

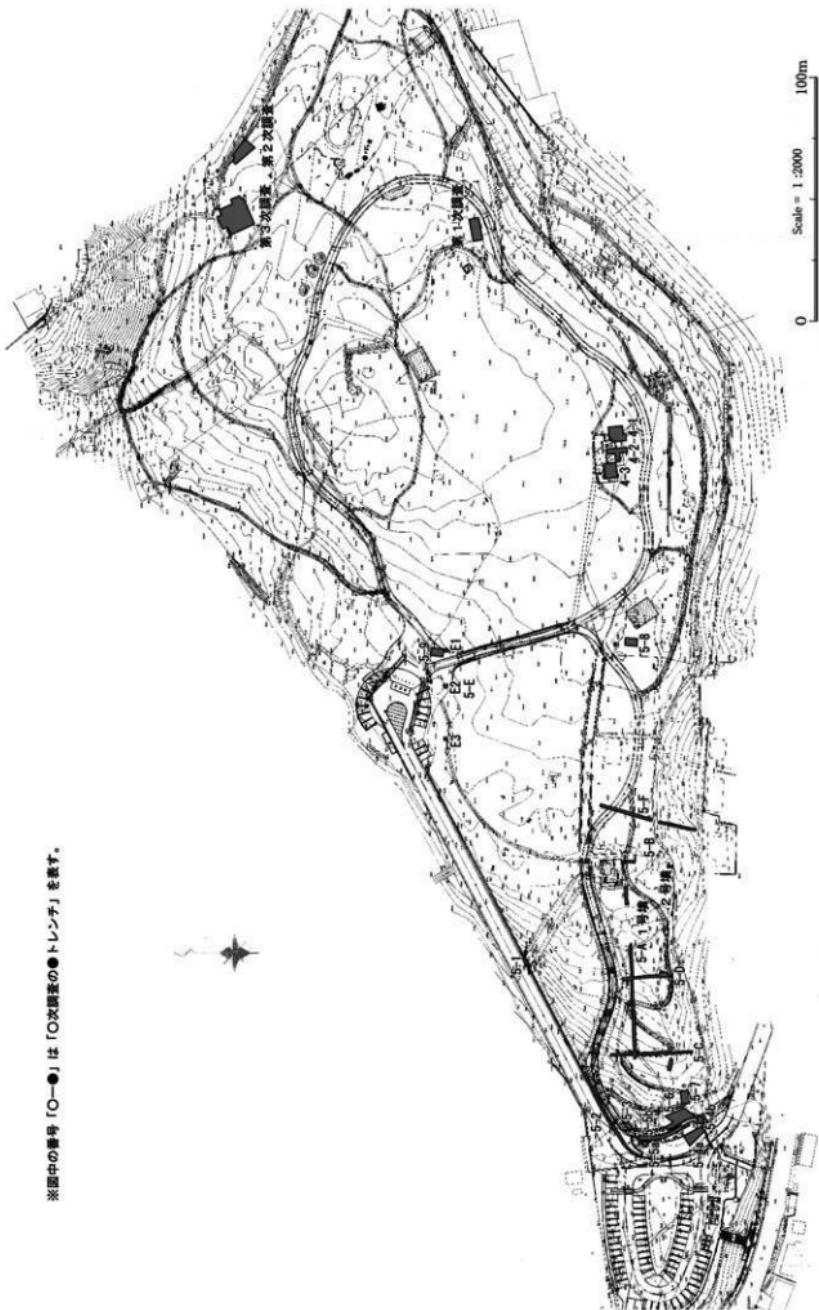
北前遺跡は、これまでの調査の結果、縄文時代早期末頃の集落跡、前中期末頃の土坑群、中期後半の集落跡が発見されている。特に早期末頃の集落跡は県内でも例が少なく貴重な成果である。

**古墳時代** 三神峯古墳群周辺の古墳時代の遺跡としては、三神峯丘陵の南側に位置する原遺跡がある。平成9～12年の調査で古墳時代前期後半から中期後半にかけての古墳群が発見されている。中でも古墳時代前期後半のものと考えられる方墳からは、粘土郭を伴う割竹形木棺の主体部が発見された。また、円墳からは宮城県内2例目となる人物埴輪が出土している。中期と考えられる前方後円墳に、裏町古墳がある。調査の結果、墳丘には葺石を敷き、埴輪が並んでいたと考えられる。主体部内からは青銅製乳文鏡、鉄製刀子や須恵器などが出土している。墳丘から出土した埴輪は、三神峯古墳群に隣接する富沢窯跡の出土製品と類似している。主体部と外表施設の両者が明らかになった点、須恵器、埴輪の編年との対比が可能な点から貴重な古墳である。中期後半～後期にかけて連続して造られた群集墳として大野田古墳群がある。これまでの調査で確認された古墳は44基を数える。なかでも遺跡範囲に含まれる春日社古墳の調査では、主体部から革盾が出土し東北でも初の貴重な発見となった。後期になると一塚古墳、二塚古墳がある。一塚古墳は竪穴式石室と凝灰岩製の刳り抜き式石棺が発見され、棺内からは鳥文鏡や勾玉、ガラス小玉等が出土している。終末期では、三神峯遺跡の北東に隣接する土手内横穴墓群がある。横穴墓が8基発見され、土師器・須恵器や鉄製品が出土している。



1: 三神峯遺跡 2: 土手内横穴墓群 3: 金山窯跡 4: 三神峯古墳群 5: 富沢窯跡 6: 芦ノ口遺跡 7: 土手内遺跡 8: 原遺跡 9: 杉手手（鹿島土手）  
10: 裏町古墳 11: 富沢遺跡 12: 泉崎浦遺跡 13: 山口遺跡 14: 下ノ内浦遺跡 15: 下ノ内遺跡 16: 伊古田遺跡 17: 六反田遺跡 18: 大野田官衙遺跡  
19: 大野田遺跡 20: 王ノ壇遺跡 21: 大野田古墳群 22: 春日社古墳 23: 王ノ壇古墳 24: 五反田古墳 25: 上野遺跡 26: 山田条理遺跡 27: 船渡前遺跡  
28: 山田上ノ台遺跡 29: 北前遺跡 30: 御羊平道跡 31: 一塚古墳 32: 二塚古墳

第1図 遺跡地図 (\$=1/25,000)



※図中の番号「〇—●」は「〇次調査の●トレンチ」を表す。

第2圖 調查區位置圖

### 第Ⅲ章 三神峯遺跡第4次調査

#### 1 調査の方法

第4次調査は、平成6年1月10日に着手した。調査区は、公衆トイレ建設予定地に1箇所（1トレンチ）、さらに西側にL字トレンチを1箇所（2トレンチ）設定した（1トレンチ5.5m×6.5m、2トレンチ2m×9m）。1トレンチは現地表面より深さ約40～60cm、2トレンチは深さ25～30cmを重機により掘削した後、確認調査を実施し同年1月11日に終了した。また、同年12月15日、公衆トイレ西側の障害者用トイレ建設予定地に調査区（3トレンチ5m×6m）を設定した。現地表面より深さ約30～40cmを重機で掘削し、確認調査を実施した。

#### 2 基本層序

基本層は2層確認した。I層は表土で、層厚が約20～40cmの暗褐色砂質シルト層である。層中には縄文土器片が含まれる。II層は、黄褐色粘土質シルト層で、遺構確認面である。

#### 3 調査の結果

##### 1トレンチ（第2・3図、写真図版1-2）

基本層はI層（暗褐色シルト）で縄文土器片を含む。調査区中央には直径3mの円形の搅乱があり、遺構はII層（黄褐色粘土質シルト）上面で確認した。調査区東側に性格不明遺構あるいは遺物包含層と考えられるプランを1ヶ所確認した。縄文土器片が出土しており、住居跡の可能性も考えられる。また調査区南側中央付近には、直径約50cmの円形プランの焼土範囲を確認した。非常に強く焼けており、屋外炉とも考えられる。また土坑も2基確認した。

##### 2トレンチ（第2・3図）

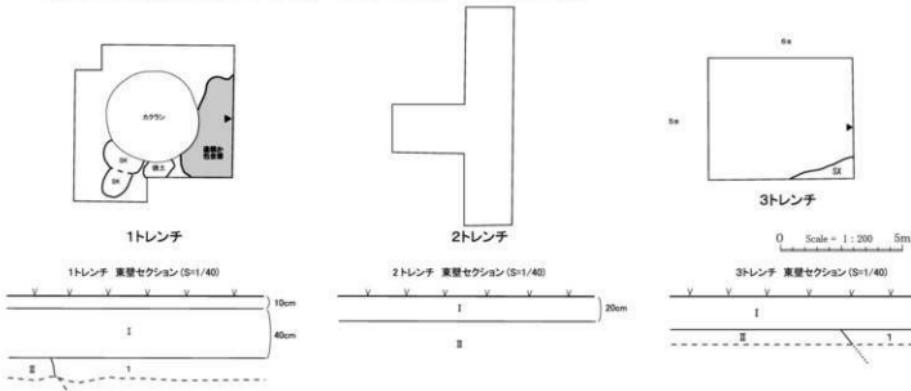
遺構・遺物は発見されなかった。

##### 3トレンチ（第2・3図、写真図版1-3）

II層上面で遺構検出を行った。調査区南側の一部に性格不明遺構を1基確認した。堆積土には焼土粒・炭化物粒、縄文土器片が含まれる。遺構の範囲はさらに南側へ続くものと考えられる。

#### 4まとめ

1トレンチと3トレンチで遺構を確認した。1トレンチの性格不明遺構は、周辺で屋外炉とも見られる焼土範囲を確認していることから住居跡の可能性は考えられるが、検出のみであるため詳細は不明である。太白区建設部建設課および建設局公園課と協議の上、公衆トイレおよび障害者用トイレは遺構に影響がないように、予定された地点から北西および北側へずらして建設することとなった。



第3図 三神峯遺跡第4次調査 遺構配置・土層断面略図

## 第IV章 三神峯遺跡第5次調査および三神峯古墳群確認調査

### 1 調査の方法

第5次調査および三神峯古墳群確認調査は、三神峯公園の整備範囲を対象として、1年次（平成19年3月12日～20日）には6ヶ所、2年次（平成19年8月20日～9月7日）に9ヶ所トレンチを設定し、調査を実施した。本章では、トレンチごとに検出した遺構と遺物について報告する。トレンチ名は1年次に調査したトレンチをA～Fトレンチ、2年次に調査したトレンチを1～9トレンチとした。遺構の調査は、1～7トレンチは本調査を行ったが、それ以外は遺構確認を前提としたため、掘り下げや半截による遺構の調査は行っていない。従って、遺構の性格・種別まで把握していないものについては「土坑状遺構」「ピット状遺構」のように想定される遺構名称に「～状遺構」と呼称した。それゆえ、遺構番号を付していない遺構がある。出土遺物があった場合や遺構の性格（種類）が掴めたものについてはトレンチごとに通し番号を付した。

### 2 基本層序

本調査区は、三神峯公園の西半部内に広範囲にわたって各トレンチを設定しており、地点によって様相が異なるため、基本層序については大きく3つの範囲に分けて記載する。基本的には、II層もしくはIII層上面が遺構確認面である。また、III層は第4次調査のII層に対応する。

#### A～D・Fトレンチ（三神峯古墳群確認部分）

基本層は4層確認した。I層は表土で、層厚が約30～70cmの暗褐色砂質シルト層である。II層はA・C・Eトレンチで確認している。層厚が約20cm、にぶい褐色粘土層である。III層は明黄褐色の粘土層である。DトレンチではI層直下からIII層を確認した。IV層はDトレンチ南部でのみ確認している。にぶい黄橙色の粘土層である。

#### 1～7トレンチ（三神峯公園西端斜面部）

基本層は5層確認した。I層は表土で、層厚が約8～30cmの、凝灰岩粒を少量含む暗褐色砂質シルト層である。II層は層厚が約10～140cmで、直径1～3mmの凝灰岩粒を含む褐色砂質シルト層である。III層は段丘礫層で、層厚が約20～90cm、直径1～15cmの安山岩・凝灰岩礫を多量に含む明黄褐色砂質シルトである。IV層は、層厚が約30～90cm、礫を多く含むにぶい黄褐色粘土質シルトである。この層は斜面下部ではIVa層～IVc層に細分される。IVc層は凝灰岩粒を多量に含む。

#### E・8～9トレンチ（三神峯公園中央平坦部）

基本層は3層確認した。I層は表土で、層厚が約5～55cmの黒褐色砂質シルトである。II層は遺物包含層で、層厚が約2～34cmの暗褐色粘土質シルトである。III層は、段丘礫層で層厚は10～40cm、直径1～15cmの円礫を多く含む黄褐色シルト層である。8トレンチでは、I層直下からIII層を確認した。

### 3 調査の結果

#### Aトレンチ（第2・4図、写真図版1～5）

Aトレンチは0.5m×5m(27m)で、土層はI～III層までを確認した。本トレンチは残存する三神峯古墳群の1号墳を東西方向に横断する位置に設定している。ただし今回は、墳丘部分の調査を行わず周溝部分の検出のみ行った。遺構はIII層上面で検出した。確認した遺構は、1号墳周溝と土坑状遺構7ヶ所である。遺物は検出作業中に土器片2点が出土している。

#### 1号墳（第4・5図、写真図版1～6）

以前より墳丘が残存する古墳として確認されていた古墳である。本トレンチの東半部で2ヶ所、周溝を確認した。周溝の上端幅は、約27m～28mである。推定される周溝外縁径は約22.5mで、内縁径は約17.3mである。周溝の堆積土は2層まで確認している。いずれも黒色のシルト質粘土だが、堆積2層は土中に火山灰をブロック状に含んでいる。遺物は出土していない。

#### Bトレンチ（第2・4図、写真図版1-7）

Bトレンチは0.5m×6m（3m<sup>2</sup>）で、土層はI層とその直下にIII層を確認した。本トレンチは残存する三神峯古墳群の2号墳をほぼ南北方向に横断する位置に設定した。ただし1号墳同様、墳丘部分の調査を行わず周溝部分の検出のみ行った。遺構はI層直下のIII層上面で検出した。検出した遺構は、2号墳周溝のみである。遺物は出土していない。

#### 2号墳（第4・7図、写真図版1-7）

以前より墳丘が残存する円墳として確認されていた古墳である。2ヶ所で周溝を検出したが、そのうち1ヶ所は内縁のみ上端を確認している。周溝の上端幅は約2.5mである。推定される周溝外縁径は約19mで、内縁径は約14.5mである。周溝の堆積土は1層まで確認しており、灰黄褐色のシルト質粘土である。遺物は出土していない。

#### Cトレンチ（第2・4図、写真図版2-1）

Cトレンチは0.5m×38m（19m<sup>2</sup>）、土層はIからIII層を確認した。遺構はIII層上面で検出している。検出した遺構は、これまで未確認だった古墳の周溝1基と土坑状遺構1ヶ所である。遺物は検出作業中に縄文土器片が1点出土している（第12図-1）。

#### 3号墳（第4・7図、写真図版2-1・2）

これまで存在が確認されておらず、今回初めて確認した古墳である。本トレンチ南部で周溝を3ヶ所、墳丘部分を一部検出している。周溝の上端幅は、約1.7m～2.5mである。推定される周溝外縁径は約14mで、内縁径は約10.5mである。周溝の堆積土は1層まで確認しており、にぶい黄褐色の粘土質シルトである。墳丘の堆積土は2層に細分され、1層は明黄褐色の粘土で、2層は褐色の粘土質シルトで旧表土である。遺物は、周溝から円筒埴輪片が多数出土しており、うち5点を図示した（第14図-1～5）。

#### Dトレンチ（第2・4図）

Dトレンチは0.5m×23m（11.5m<sup>2</sup>）、土層はI層とその直下にIII層とIV層を確認した。遺構はIII層上面で検出している。検出した遺構は不整形の土坑状遺構1ヶ所である。遺物は出土していない。

#### Eトレンチ（第2図）

Eトレンチは1m×1mを3ヶ所（3m<sup>2</sup>）調査している。土層はI～III層を確認した。検出した遺構は、E2、E3トレンチではII層上面で焼土の分布が見られた。遺物は各トレンチII層中に縄文土器片が含まれており、II層は遺物包含層と考えられる。5点を図示した（第12図-2～6）。3は、並行する沈線の間に連続して半截竹管文が施文されている。5は地文がL R縄文で、粘土紐貼付による梯子状文が施されている。6は、波状口縁で突起部分の口唇部に刻目文がある。刺突文と沈線文が施されており、口縁下部には刻目文を付した横位の隆線文が施文されている。

#### Fトレンチ（第2・4図、写真図版2-3）

Fトレンチは0.5m×35m（17.5m<sup>2</sup>）で、土層はI層とその直下にIII層を確認した。検出した遺構は、北部では溝状遺構1ヶ所と土坑状遺構4ヶ所、南部では溝状遺構2ヶ所と土坑状遺構1ヶ所である。北部の溝状遺構は幅が約3.5～3.8mで、円筒埴輪片が多数出土しており、そのうち1点を図示した（第14図-9）。古墳周溝の片側である可能性も考えられるが、本トレンチ内ではその溝状遺構の対称となる明確な溝状遺構は確認できず、詳細は不明である。また、I層中から平瓦片が1点出土している（第14図-10）。南部では遺物は出土していない。

#### 1・2・3・4・5・7トレンチ（第2図、写真図版2-4～3-2、3-5）

各トレンチの面積は以下のとおりである。土層は各トレンチでI層～IV層までを部分的に確認している。遺構・遺物は検出されなかった。

（調査面積） 1トレンチ…4m<sup>2</sup> 2トレンチ…45m<sup>2</sup> 3トレンチ…8m<sup>2</sup> 4トレンチ…45m<sup>2</sup> 5トレンチ…48m<sup>2</sup>

## 7 トレンチ…20m<sup>2</sup>

### 6 トレンチ（第2・8図、写真図版3-3）

6 トレンチは65m<sup>2</sup>で、土層はⅠ～Ⅳ層を確認した。検出した遺構は、Ⅱ層上面で土坑3基、溝跡1条である。また、Ⅱ層中より円筒埴輪片が多数出土しており、うち1点を図示した（第14図-6～8）。

#### S K 1 土坑跡（第8・9図、写真図版3-4）

調査区中央部で検出された。平面形は隅丸方形で、断面形は逆台形である。規模は長軸約117cm、短軸約80cm、深さ約30cmである。堆積土は3層に分けられ、いずれも砂質シルトである。3層とも炭化物を多く含み、特に2層では焼土が多量に含まれていた。焼け面は壁面の下部に見られるが、底面にはほとんど認められない。遺物は出土していない。

#### S K 2 土坑跡（第8・9図）

調査区北西部で検出した。新旧関係はSK 3より古い。平面形はほぼ楕円形で、断面形は逆台形である。規模は長軸約100cm、短軸約60cm、深さ約20cmである。堆積土は2層に分けられ、いずれも砂質シルトである。2層とも炭化物を含み、1層には焼土が少量含まれている。遺物は出土していない。

#### S K 3 土坑跡（第8・9図）

SK 2のすぐ西側で検出した。新旧関係はSD 1より古く、SK 2より新しい。平面形・断面形はともにほぼ方形で、規模は一辺約100～120cm、深さ約36cmである。堆積土は2層に分けられ、いずれも砂質シルトで炭化物と少量の焼土を含んでいる。遺物は出土していない。

#### S D 1 溝跡（第8・9図）

調査区北西部で検出した。新旧関係はSK 3より新しい。北から南西に延びる溝で、確認した範囲での規模は長さが約220cm、幅が約100～140cm、深さは約32cmである。堆積土は1層で暗褐色の粘土質シルトで焼土を少量含む。遺物は出土していない。

### 8 トレンチ（第2・10図、写真図版3-6）

8 トレンチは15m<sup>2</sup>で、土層はⅠ層とその直下にⅢ層を確認した。検出した遺構はⅢ層上面でピット1基、土坑1基、性格不明遺構2基である。

#### S K 1 土坑跡（第10図）

調査区東壁中央部で検出した。平面形は楕円形で、確認した範囲での規模は長軸約20cm以上、短軸約20cm、深さは約37cmである。堆積土は1層で暗褐色のシルト質砂で小礫を含む。遺物は出土していない。

#### P 1 ピット（第10図）

調査区東壁中央部で検出した。平面形は楕円形で、確認した範囲での規模は長軸約60cm以上、短軸約80cm、深さは約46cmである。堆積土は1層で暗褐色のシルト質砂で小礫を含む。遺物は出土していない。

#### S X 1 性格不明遺構（第10図）

調査区北西部で検出した。中央部に擾乱が見られた。平面形は1.2m以上×32m以上の隅丸方形を基調としたものと考えられる。調査区西壁際を一部掘り下げ、断面を確認した。堆積土は4層に分けられる。おおむね砂質シルトだが、2層は細砂で1層の土をブロック状に少量含む。底面はほぼ平坦で深さは約56cmであるが、南側で一部約30cm段差をもって高くなる。遺物は土器片が1点出土している。確認のみのため、詳細は不明だが規模や形態から竪穴住居の可能性も考えられる。

#### S X 2 性格不明遺構（第10図）

調査区南西隅で確認した。平面形・規模とともに不明である。遺物は出土していない。

### 9 トレンチ（第11図、写真図版3-7・8）

9 トレンチは15m<sup>2</sup>で、確認した遺構は、Ⅱ層上面で土坑1基とピット1基、Ⅲ層上面で土坑2基・土坑状遺構3ヶ所・ピット16基である。SK 1～3、P 1～4から繩文土器が出土している。Ⅰ層および遺物包含層であるⅡ層中から出土した繩文土器片のうち21点（第12図-8～28）、土製品1点（第12図-29）、石器9点（第13

図-1~9)を図示した。第12図7は、地文はL.R縄文で口縁部は肥厚している。8は、粘土紐貼付による縦位の太い隆線の上に沈線文が2条施されている。9・12・21・19・23は、複数の並行する細い沈線文が縦位、横位、斜位あるいは鋸歯状に施されている。そのうち12は、円形の沈線も施文されており、19は刺突文、貼付文がある。13は、屈曲させた太い隆線文が施文され、隆線文の縁に沈線文が1条施されている。10・11・14・24は粘土紐貼付による細い隆線文が施文され、うち11・24は鋸歯状文がみられる。15・17・18・27はいずれも口縁部片で縦位、横位にやや太い沈線が施文されており、18は横位の平行沈線の間に連続する弧状沈線文を施している。16は、口縁部は肥厚しており、指頭状の圧痕がある。20の突起は口縁部の内側を環状としている。22は緩い渦巻状に太い隆線文が施文され、その縁に細い隆線文が施されている。25は、口唇部と口縁下部に連続刺突文が施文されている。26・28は、並行する沈線の間に刺突が施されている。

#### ・Ⅱ層上面遺構

##### S K 1 土坑跡（第11図）

調査区西壁中央部で確認した。平面形は楕円、断面形はU字形である。確認した範囲での規模は長軸約85cm、短軸約30cm以上、深さ約30cmである。堆積土は1層で、遺物は縄文土器が出土している。

##### P 1 ピット（第11図）

調査区南部で確認した。平面形は楕円形である。規模は長軸約30cm、短軸約25cm、深さ約10cmである。堆積土は1層で、遺物は縄文土器が出土している。

#### ・Ⅲ層上面遺構

##### S K 2 土坑跡（第11図）

調査区西壁南部で確認した。平面形は楕円、断面形は不明である。規模は長軸約90cm以上、短軸約40cm以上である。

##### S K 3 土坑跡（第11図）

調査区南東部で確認された。平面形は楕円、断面形は台形である。規模は長軸約200cm、短軸約160cm、深さ約30cmである。堆積土は3層に分けられ、炭化物や焼土を含む粘土質シルトである。また、縄文土器が多数出土しており、うち1点を図示した（第12図-7）。

##### P 2 ピット（第11図）

調査区東壁で確認した。平面形は楕円形である。規模は長軸約32cm、短軸約20cm、深さ約30cmである。堆積土は1層で暗褐色の粘土質シルトである。縄文土器が多数出土している。

##### P 3 ピット（第11図）

P 2の南側で検出した。平面形は不明である。規模は一辺約4cm、深さ約12cmである。堆積土は1層で、縄文土器が多数出土している。

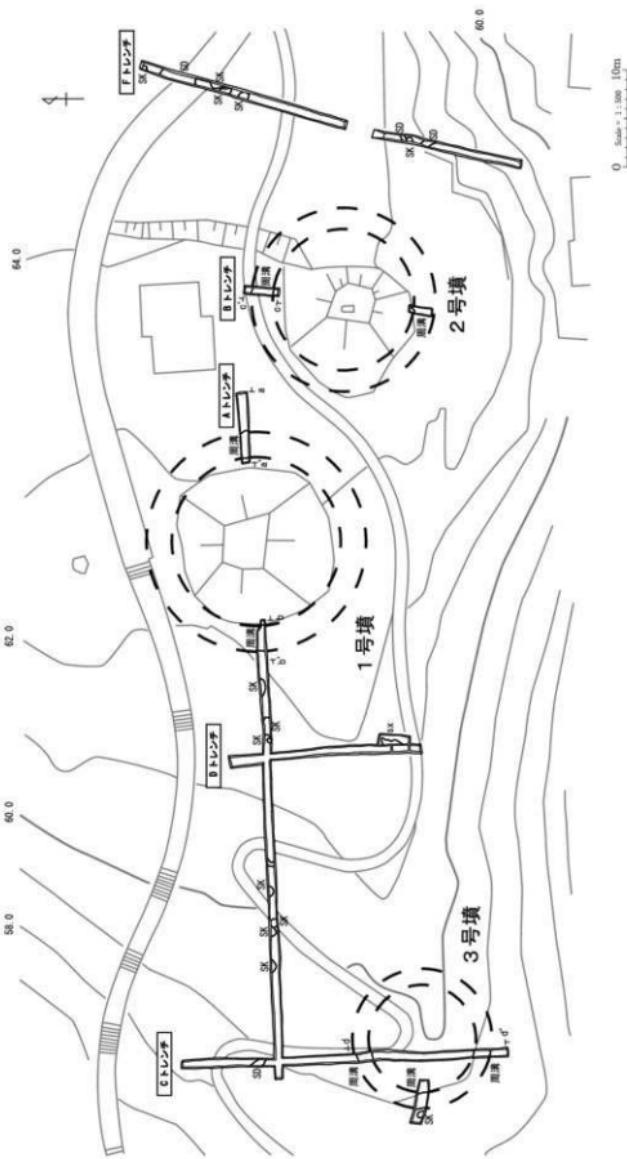
## 第V章 まとめ

- 当報告に関わる調査は、三神峯公園公衆トイレ建設および公園内再整備事業に伴って平成6、19年に確認調査および一部本調査を実施したもので、調査面積はトレンチ18ヶ所であわせて139.75m<sup>2</sup>である。
- 三神峯遺跡南部で3ヶ所のトレンチを設定して行った第4次調査では、性格不明遺構2基、土坑2基を確認した。性格不明遺構2基のうち1基は、付近に円形の焼土範囲も確認しており、詳細は不明だが住居跡の可能性も考えられる。同じく遺跡南部で調査した第5次調査8トレンチでも住居跡の可能性が考えられる性格不明遺構を1基確認している。
- 第5次調査は、遺跡西半部で15ヶ所のトレンチを設定し調査を実施し、地点的ではあるが遺構の広がりを確認した。
  - 6トレンチでは土坑を3基確認した。いずれも堆積土中に焼土と炭化物を含んでおり、何らかの焼成作業に関わる遺構と考えられる。ただし、これらの底面に焼面がほとんど見られず、壁面の下半部のみが著しく焼土化していることから、土坑内で単純に火を使用したのではなく、何らかの構造物があったものと推測される。正確な年代は不明だが、仙台市内で土手内窯跡や茂庭けんとう城等で同様

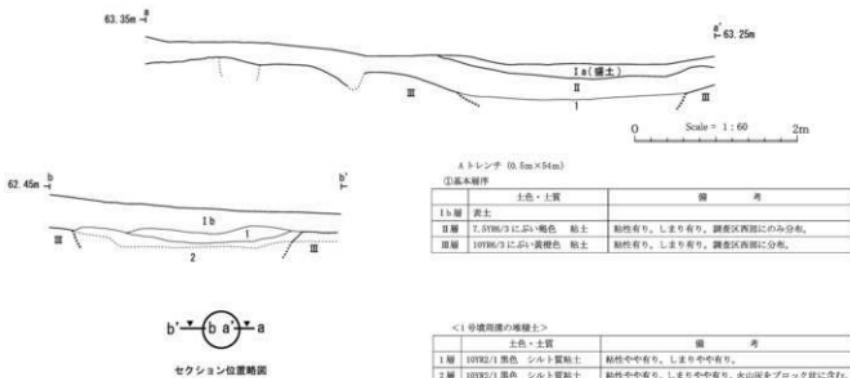
- の特徴をもつ土坑が確認されている。
- ② Eトレント及び9トレントでは、表層直下で遺物包含層を確認した。出土遺物は層中に混在しており、層位的に分類することはできなかったが、土器の特徴から、宮城県栗原市迫町糠塚貝塚や同築館町嘉倉貝塚に類似資料が見られ、縄文時代前期後葉から中期前葉のものと考えられる。
- ③ 遺物包含層直下で同様の年代と考えられる遺構を確認した。今回の結果を受けて、平成20年6～9月に三神峯遺跡第6次発掘調査を実施し、平成21年3月に報告書（引用・参考文献3）を刊行したので詳細はそちらを参照されたい。
4. 三神峯古墳群は、これまで2基の円墳の存在が確認されていたが、今回の調査では、新たにもう1基の古墳の周溝と埴丘の一部をCトレントで検出し、三神峯3号墳とした。周溝から円筒埴輪片が多数出土しており、周溝の形状からも3号墳は埴輪をもつ円墳であると考えられる。また、これまで存在が確認されていた1号墳・2号墳についても、あわせて周溝の確認調査を行った。このほかにも、Fトレントで埴輪片が多数出土する溝を1条検出しており、さらに周辺に古墳が存在する可能性を指摘しておきたい。
5. Fトレントでは、1層中で平瓦片が1点出土した。凹面に布目・模骨痕がある。本トレントは三神峯遺跡南側に隣接する富沢窯跡に近接する地点に位置する。富沢窯跡は、昭和49年に行った古窯跡研究会の調査によって、東北地方唯一の調査例である埴輪窯跡も存在している窯跡として知られているが、もとは周辺で布目のある瓦が採集されており、古代の瓦窯跡として知られていた。今回出土した平瓦片もこの一連のものと考えられる。

## 引用・参考文献

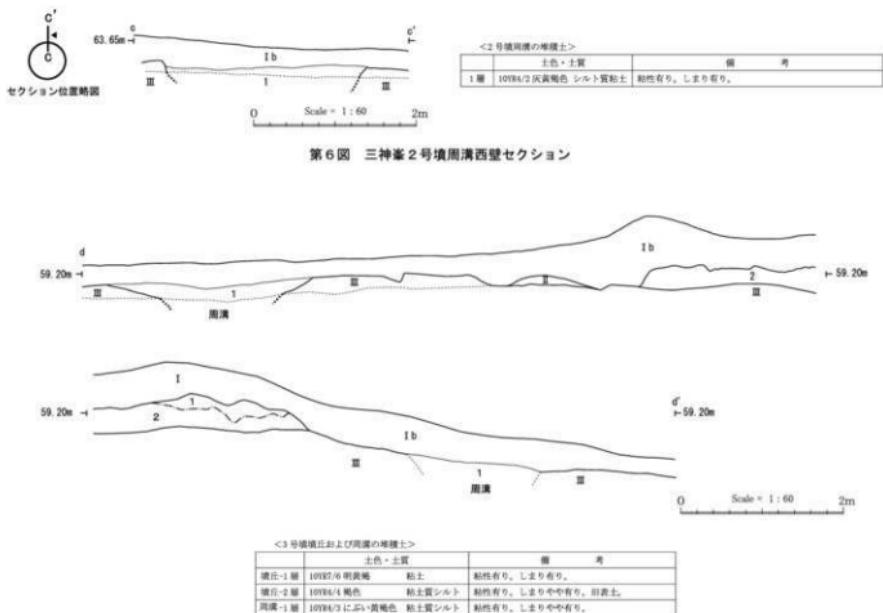
1. 白鳥良一 1974『仙台市三神峯遺跡の調査』『東北の考古歴史論集』宝文堂 <三神峯遺跡第1次調査報告>
2. 仙台市教育委員会 1980『三神峯遺跡発掘調査報告書－東北電力送電線鉄塔移設に伴う北東部C地点緊急発掘調査』仙台市文化財調査報告書第25集 <三神峯遺跡第2・3次調査報告>
3. 仙台市教育委員会 2009『三神峯遺跡－第6次発掘調査報告書－』仙台市文化財調査報告書第338集
4. 仙台市教育委員会 2002『原遺跡－第4次発掘調査報告書－』仙台市文化財調査報告書第257集
5. 仙台市史編さん委員会 1995『仙台市史 特別編2 考古資料』仙台市
6. 古窯跡研究会 1974『富沢窯跡－仙台市三神峯丘陵所在窯跡調査報告書』



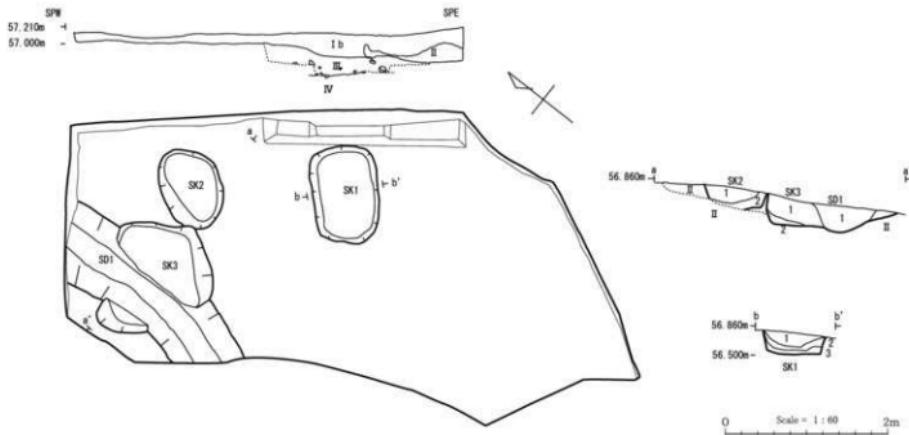
第4図 三神峯古墳群通構配座図



第5図 三神峯1号填周溝南壁セクション

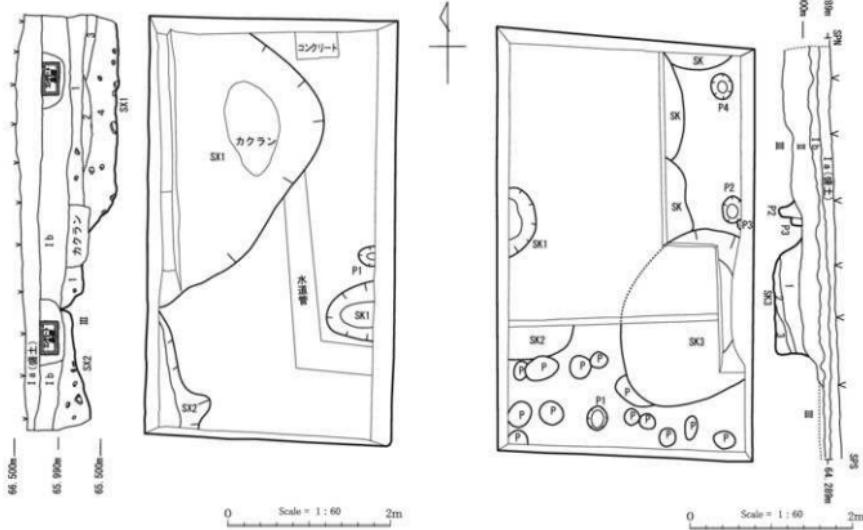


第7図 三神峯3号填周溝セクション



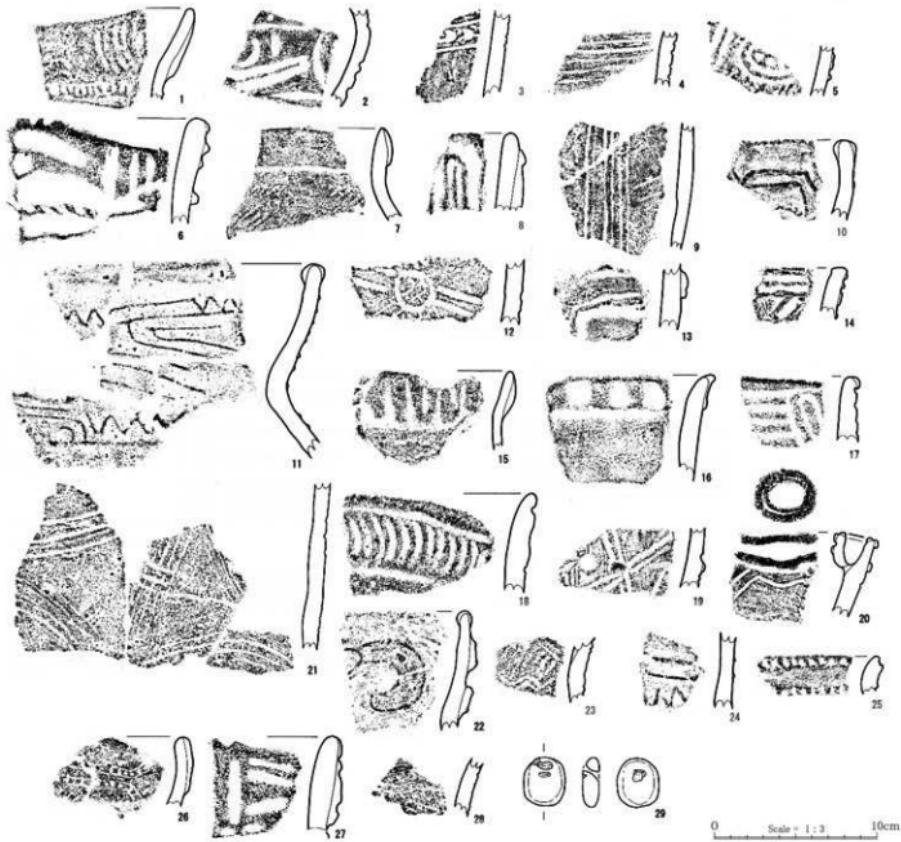
第8図 第5次調査6トレンチ③平面図・断面図

第9図 第5次調査6トレンチ③SD1・  
SK1・SK2・SK3断面図



第10図 第5次調査第8トレンチ平面・断面図 S = 1/60

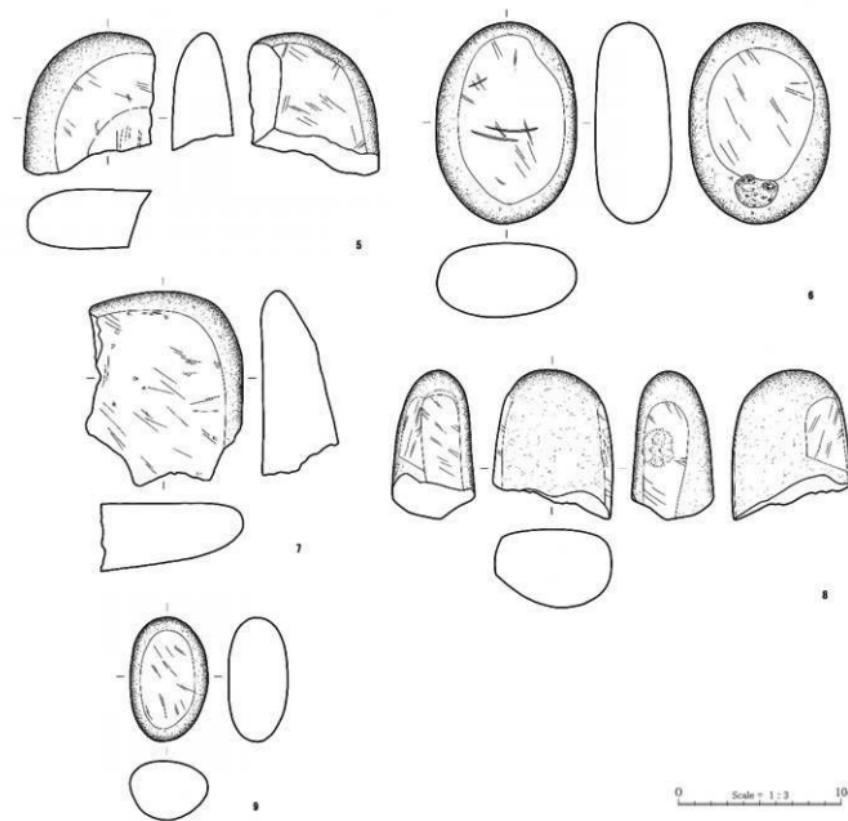
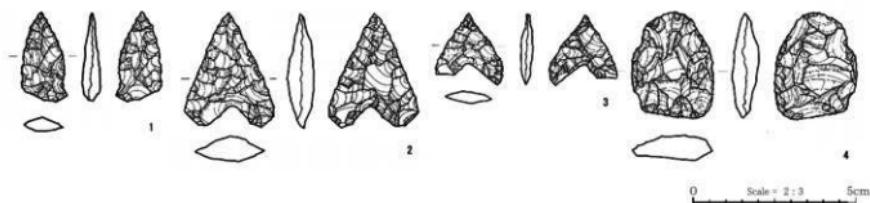
第11図 第5次調査第9トレンチ平面図・断面図 S = 1/60



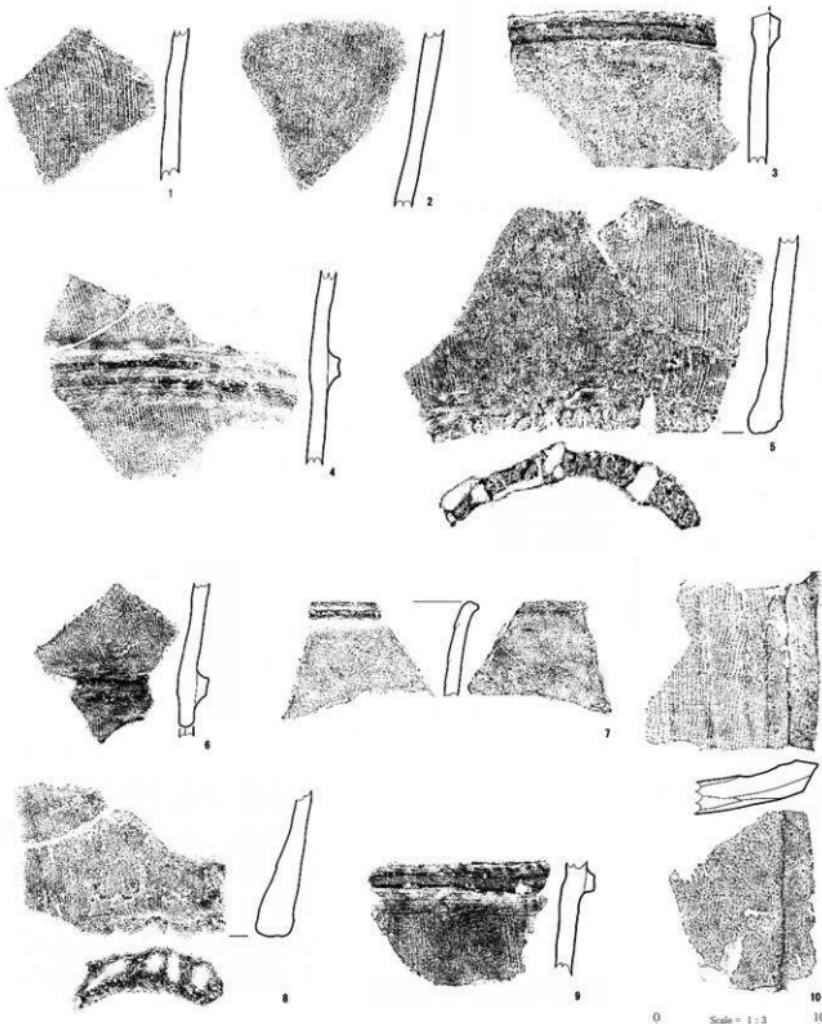
0 Scale 1 : 3 10cm

固中番号	登録番号	出土地点	遺構名 -基本組	出土 層位	種別	器種	法面(cm)			備考
							最高・最低	口徑・幅	底径・厚さ	
1	A-7	C1レシ-7	II層	-	圓文土器	深鉢	-	-	-	外: 楊柳文、刻突文、内: ナデ
2	A-1	E3レシ-1	II層	-	圓文土器	深鉢	-	-	-	外: 楊柳文、内: ナデ
3	A-3	E3レシ-3	II層	-	圓文土器	深鉢	-	-	-	外: 楊柳文、刻突文、内: ミガキ
4	A-4	E3レシ-4	II層	-	圓文土器	深鉢	-	-	-	外: 楊柳文、内: ミガキ
5	A-5	E3レシ-5	II層	-	圓文土器	深鉢	-	-	-	外: 山形文、楊柳文、内: 厚底
6	A-6	E3レシ-6	II層	-	圓文土器	深鉢	-	-	-	外: 楊柳文、刻突文、内: ミガキ
7	A-24	9レシ-7 SK3	理3層	-	圓文土器	深鉢	-	-	-	外: 山形肥底器、内: (J.R) 内: 厚底
8	A-11	9レシ-7	II層	-	圓文土器	深鉢	-	-	-	外: 楊柳文、内: ミガキ
9	A-12	9レシ-7	II層南面	-	圓文土器	深鉢	-	-	-	外: 楊柳文、内: 厚底
10	A-14	9レシ-7	II層	-	圓文土器	深鉢	-	-	-	外: 楊柳文、内: 厚底
11	A-15	9レシ-7	II層	-	圓文土器	深鉢	-	-	-	外: 楊柳文、内: 厚底
12	A-16	9レシ-7	II層上部	-	圓文土器	深鉢	-	-	-	外: 楊柳文、内: 厚底
13	A-16	9レシ-7	II層	-	圓文土器	深鉢	-	-	-	外: 楊柳文、花瓶文、内: ミガキ
14	A-18	9レシ-7	II層	-	圓文土器	深鉢	-	-	-	外: 楊柳文、内: 厚底
15	A-19	9レシ-7	II層南面	-	圓文土器	深鉢	-	-	-	外: 楊柳文、内: 厚底
16	A-21	9レシ-7	II層	-	圓文土器	深鉢	-	-	-	外: 山形部に壺状状の押付、内: ミガキ
17	A-22	9レシ-7	II層上部	-	圓文土器	深鉢	-	-	-	外: 楊柳文、花瓶文、内: 厚底
18	A-25	9レシ-7	II層	-	圓文土器	深鉢	-	-	-	外: 楊柳文、内: 厚底
19	A-27	9レシ-7	II層	-	圓文土器	深鉢	-	-	-	外: 楊柳文 (J.R)、沈縫文、内: ミガキ
20	A-26	9レシ-7	II層	-	圓文土器	深鉢	-	-	-	外: 楊柳文、沈縫文、内: ミガキ
21	A-23	9レシ-7	II層南	-	圓文土器	深鉢	-	-	-	外: 楊柳文、内: 厚底
22	A-34	9レシ-7	II層	-	圓文土器	深鉢	-	-	-	外: 山形付口文
23	A-25	9レシ-7	II層	-	圓文土器	深鉢	-	-	-	外: 楊柳文、花瓶文、豆皿文、内: ナデ
24	A-35	9レシ-7	II層	-	圓文土器	深鉢	-	-	-	外: 楊柳文、内: ナデ
25	A-9	9レシ-7	I層	-	圓文土器	深鉢	-	-	-	外: 楊柳文、内: ミガキ
26	A-10	9レシ-7	I層	-	圓文土器	深鉢	-	-	-	外: 楊柳文、刻突文、内: ナデ
27	A-17	9レシ-7	I層	-	圓文土器	深鉢	-	-	-	外: 楊柳文、内: 厚底
28	A-33	9レシ-7	I層	-	圓文土器	深鉢	-	-	-	外: 小波綱文、沈縫文、内: 厚底
29	P-1	9レシ-7	I層	-	土製品	象鼻品	3.0	2.6	1.0	肩通孔1ヶ所、耳孔1ヶ所

第12図 出土遺物(1)



固中番号	登錄番号	出土地点	遺物名・基本類	出土層位	種別	器種	法量(cm)			備考
							高さ・長さ	口径・幅	底径・厚さ	
1	K-2	93レシテ	日崩上面	-	石器	石鏟	2.7	1.4	0.45	凹面削葉鏟
2	K-1	93レシテ	I層	-	石器	石刀	3.1	2.7	0.3	凹面削葉刀
3	K-3	93レシテ	I層	-	石器	石鏟	2.15	2.0	0.3	凹面削葉鏟
4	K-4	93レシテ	日崩所側	-	石器	石刀	3.2	2.5	0.7	
5	K-5	93レシテ	日崩	-	石器	石刀	(8.75)	(7.8)	3.9	重量: (310g)
6	K-8	93レシテ	II層	-	石器	磨石	12.85	8.6	4.75	重量: 785g
7	K-6	93レシテ	I層	-	石器	石刀	(11.9)	(9.6)	4.6	重量: (660g)
8	K-9	93レシテ	I層	-	石器	磨石	(9.15)	7.3	5.0	重量: (450g)
9	K-10	93レシテ	I層	-	石器	磨石	7.6	4.75	3.65	重量: 175g



0 Scale = 1 : 3 10cm

図中番号	登録番号	出土地点	遺物名・基木層	出土層位	種別	器種	法量(cm)	備考	写真図版
1	S-3	Chレシナ	3号埴周溝	-	埴輪	円筒型	器高・長さ - 口径・幅 - 底径・厚さ -	外:ハケ目 内:ハケ目、ナデ	5-1
2	S-8	Chレシナ	3号埴周溝	-	埴輪	円筒型	器高・長さ - 口径・幅 - 底径・厚さ -	外:ハケ目 内:ハケ目	5-2
3	S-1	Chレシナ	3号埴周溝	-	埴輪	円筒型	器高・長さ - 口径・幅 - 底径・厚さ -	外:ハケ目、タガ盛りナデ 内:ナデ	5-3
4	S-2	Chレシナ	3号埴周溝	-	埴輪	円筒型	器高・長さ - 口径・幅 - 底径・厚さ -	外:ハケ目、タガ盛りナデ 内:ナデ	5-4
5	S-7	Chレシナ	3号埴周溝	-	埴輪	円筒型	器高・長さ - 口径・幅 - 底径・厚さ -	外:ハケ目、棒状の直腹 内:ナデ風	5-5
6	S-4	6レシナ	日輪上面	-	埴輪	円筒型	器高・長さ - 口径・幅 - 底径・厚さ -	外:ハケ目、タガ盛りナデ 内:ナデ	5-6
7	S-9	6レシナ	日輪上面	-	埴輪	円筒型	器高・長さ - 口径・幅 - 底径・厚さ -	外:ハケ目 内:ナデ、ハケ目、沈線	5-7
8	S-10	6レシナ	日輪上面	-	埴輪	円筒型	器高・長さ - 口径・幅 - 底径・厚さ -	外:ハケ目、底部にナデ、棒状押正 内:ナデ	5-8
9	S-6	Fレシナ	1層	-	埴輪	円筒型	器高・長さ - 口径・幅 - 底径・厚さ -	外:ナデ、タガ盛り 内:ナデ	5-9
10	G-1	Fレシナ	1層	-	埴輪	平丸	器高・長さ - 口径・幅 - 底径・厚さ -	(回:布目、穂齊模 略:ナデ)	5-10

第14図 出土遺物(3)



1. 第4次調査区遠景（北→）



2. 第4次調査1トレンチ全景（南西→）



3. 第4次調査3トレンチ全景（南→）



4. 三神峯1号墳・2号墳現況（西→）



5. 第5次調査Aトレンチ全景（西→）



6. Aトレンチ三神峯1号墳周溝確認状況（西→）



7. Bトレンチ三神峯2号墳周溝確認状況（北→）



1.C トレンチ三神峯 3号墳周溝確認状況（西→）



2. 三神峯 3号墳周溝遺物出土状況（西→）



3.F トレンチ清状プラン確認状況（北→）



4. 第5次調査 1トレンチ全景（北→）



5. 第5次調査 2トレンチ全景（北東→）



6. 第5次調査 3トレンチ全景（南西→）



7. 第5次調査 4aトレンチ全景（西→）



8. 第5次調査 4bトレンチ全景（北西→）



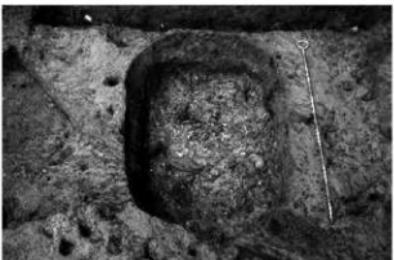
1. 第5次調査 5a トレンチ全景（西→）



2. 第5次調査 5b トレンチ全景（南西→）



3. 第5次調査 6 トレンチ全景（南→）



4. 6 トレンチ SK1 完掘状況（南西→）



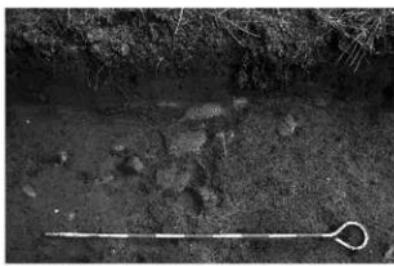
5. 第5次調査 7 トレンチ全景（西→）



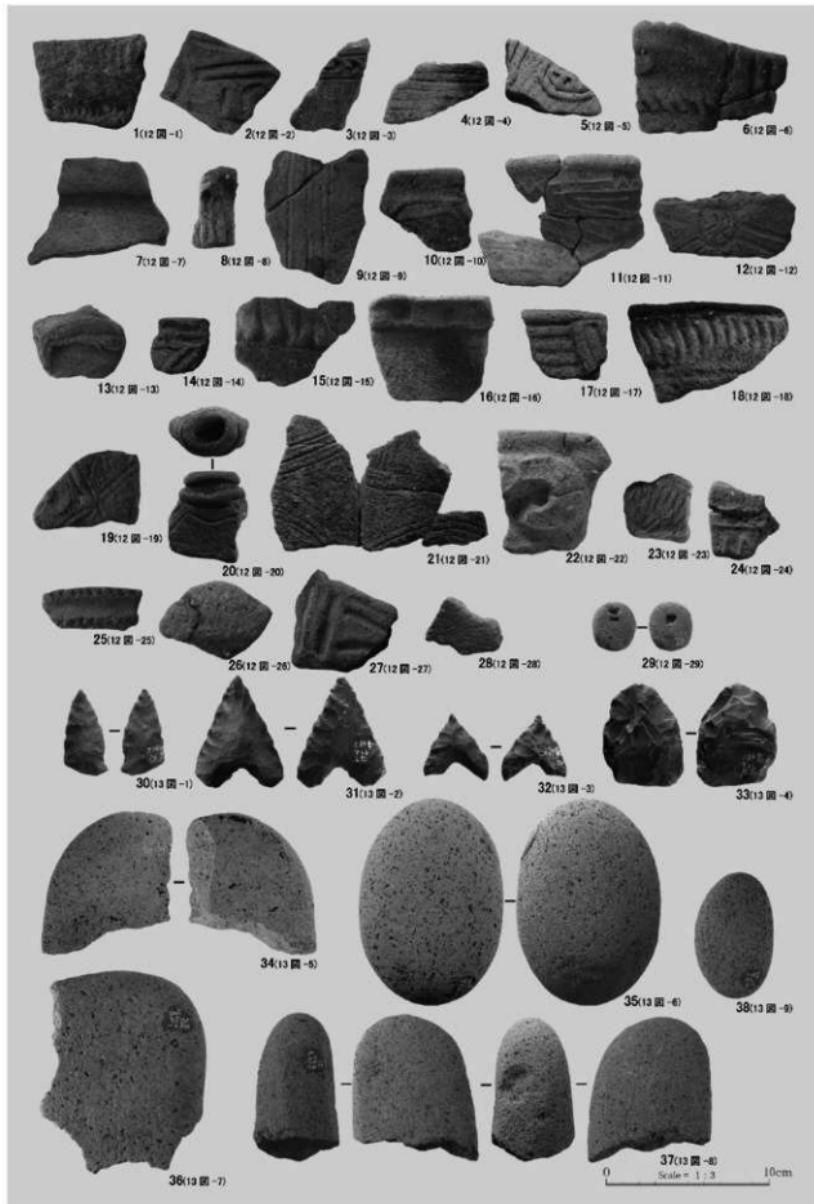
6. 第5次調査 8 トレンチ全景（南→）



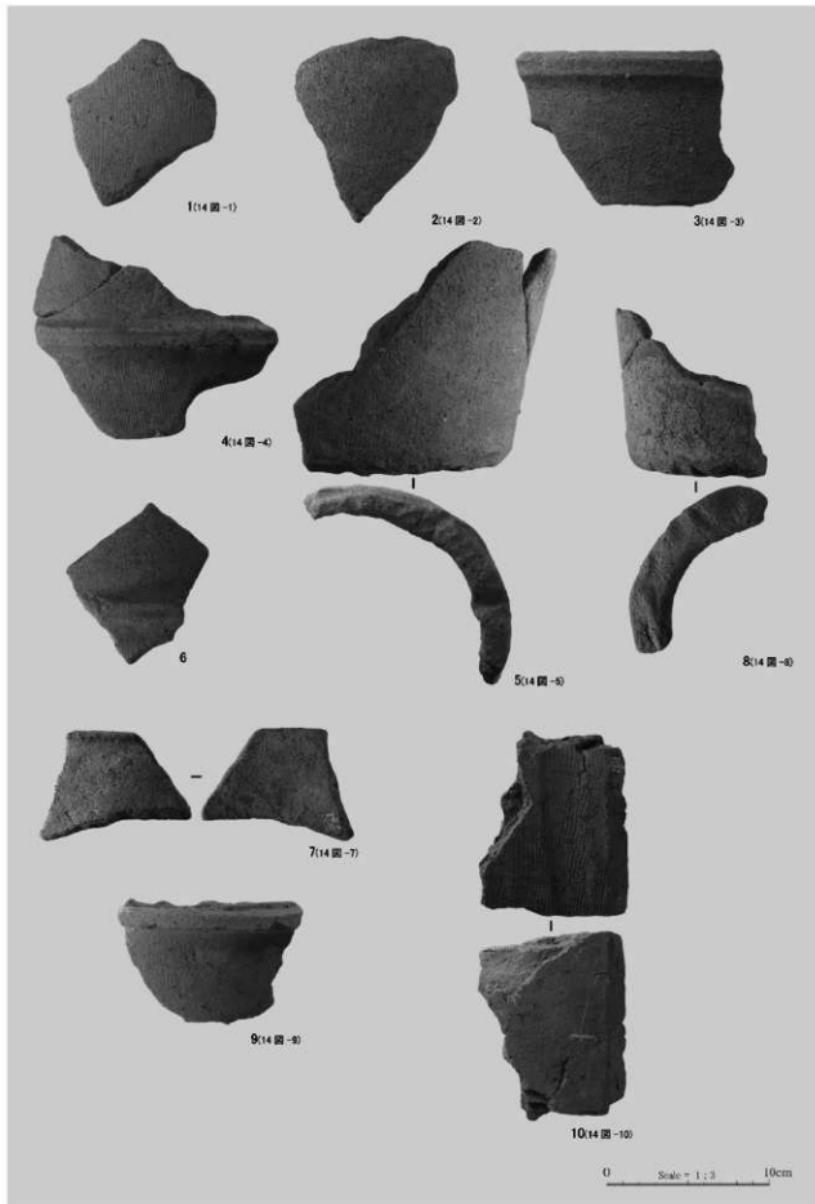
7. 第5次調査 9 トレンチⅢ層上面遺構検出状況（南→）



8. 第5次調査 9 トレンチⅡ層遺物出土状況（西→）



写真図版 4



写真図版 5



---

---

仙台市文化財調査報告書第379集

## 三 神 峯

— 三神峯遺跡第4・5次発掘調査 —  
— 三神峯古墳群確認調査報告書 —

2010年12月

発 行 仙台市教育委員会  
仙台市青葉区二日町1-1  
文化財課 022 (214) 8894

印 刷 株式会社 建設プレス  
仙台市青葉区折立三丁目2-10  
TEL 022 (302) 0177

---

---